

一体整備と比較して、機能を分散し段階的に整備する方法の優位点と課題

第2回専門家会議

資料2

区分	項目	優位点	課題	課題対応
基本構想の視点	市民活動	・それぞれのエリアに文化芸術活動の拠点ができ、ひろば機能の間口を広げることにつながる可能性がある ・大規模改修時に代替施設として別施設があるため、市民の文化芸術活動への影響が低減できる可能性がある ・利用が多い土日にも市民の文化芸術活動が滞りなく行える	・各施設で運営主体が異なると、情報共有や意思疎通、連携が滞り、基本理念の実現に問題を生ずるおそれがある ・現文化会館と同規模相当の施設が周辺にないため、市民の文化芸術活動を停滞させない整備が必要になる	・運営等に関する施設間の連携等について、管理運営計画において考え方を明確にする ・基本計画の検討段階で市民の文化芸術活動を停滞させない整備方法を検討する
	周辺地域への波及効果（基本構想「集う」）	人が集まる場、人がにじみ出る場が市内に複数箇所でき、各施設の周辺地域への波及が複数箇所で見られる可能性がある	各施設やエリアごとの特徴を明確にする必要がある	基本計画において施設と周辺地域への関わり等を明確にする
現在の状況の視点	建設費高騰	さまざまな状況に対応できる柔軟性をもった整備を進めることができる	分散することによって膨らむことが予想される共通エリア部分の建築費やライフサイクルコストを抑制するための工夫が必要となる	設計工程と開館後の施設管理を見据えた基本計画を策定する
	用地確保	用地確保の難易度を下げられるとともに、施設周辺の交通渋滞の発生リスクを低減することができる		
	スケジュール	他の大規模事業との調整を図りながら計画的、段階的に整備事業を進めることができる	基本計画の組み立てに工夫が必要となる	基本計画は全体計画と個別計画の2段階で策定する

↓

機能を分散し段階的に整備する方法でも、基本構想の基本理念等を損なうことなく具現化でき、現在の状況に対応しながら整備できる